調査コラム～史料調査の現場から　第 18 回

松江城天守の光と影

「光と影」と聞けば、渡辺淳一の直木賞受賞作品を思い出す方もいらっしゃるかもしれません。西南戦争で共に腕を負傷した二人、軍医のふとした気まぐれが光と影のように二人の運命を分けてしまったという物語です。光の人物は実在の寺内正毅をモデルとしたようで、陸軍大臣を経て内閣総理大臣にまで上りつめます。

「光と影」になぞらえれば、松江城は天守が現存することで光の道を歩んでいるのかもしれません。明治８年（1875）、多くの城郭施設が無用の長物として撤去されていく中で、松江城天守は奇跡的に残されます。荒廃が進むたびに市民の働きかけなどで修復され、戦災にもあわず今日まで守り伝えられてきました。平成 27 年（2015）に念願の国宝指定を受け、今まさに世界の宝として世界遺産登録を目指している姿は、苦難の時代を乗り越え、光の道を進んでいると言ってもいいのかもしれません。

しかし、今回のコラムは、社会科教科書（東京書籍、小学４年）にもとりあげられた松江城天守保存の歴史を紹介するものではありません。何かを単純に分けることも出来ません。天守に注がれた日の光と、天守自身が形作る影のお話です。

天守に映る日の光と影は、日々刻々とその形を変えています。写真に写った光と影を周囲の植物相などと併せて見れば、その写真が撮られた時期や時刻が分かるはずです。

一ノ門をくぐり城山事務所で受付を済ませると、本丸隅に建つ天守の入口（附櫓）に向けて直線的な園路が整備されています。この園路辺りは、天守全体を斜め正面に見上げる定番の撮影スポットでしょう。天守古写真を見ても、一ノ門側（南西側）からの構図は多く残されています。

調査コラム第 11 回「松江城天守が写る新出写真」では、明治 27 年（1894）の大修理後まもない時期に撮影されたと思われる【写真 A】を紹介しました。一ノ門側から撮影されたこの写真を見ているうちに、天守に映る光と影が気になり始めたのです。

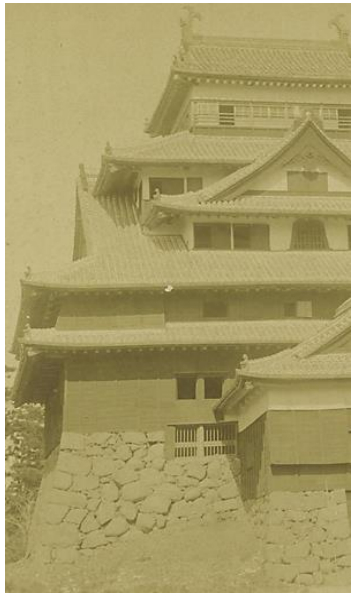
【写真 A】明治 27 年大修理後の最も古い天守の姿（松江市蔵）

【写真 A】には天守に映る日の光と影が明瞭に写し込まれており、屋根の影は一様に向かって左上から右下へと伸びています。天守正面・附櫓側はほぼ真南に向いているので、前回のコラムでは、屋根や附櫓左側（西面）の影などから正午頃の撮影と推定しました。鉄扉内で腰掛ける人物の日の当たり具合や、屋根の影位置（太陽の角度）などから、季節は秋から冬にかけてかもしれないと考えました。構図から、写真機は現在復元多門櫓（休憩所、倉庫等に利用）が建つ石垣の上に据えたと思われます。

そこで【写真 A】の複写を携え、一年の中でも昼の時間が短くなる令和 3 年 12 月 23 日の午前 11 時 30 分頃から午後 1 時過ぎまで、天守に映る日の光と影を、【写真 A】の撮影場所あたりで追いかけてみました。【写真 B-1】～【写真 B-7】

【写真 B】令和 3 年 12 月 23 日の天守の姿

【写真 B】をモノクローム化、白黒では影の存在に気づきにくい



【写真 A】の正面左側

【写真 B-1】11 時 33 分撮影

【写真 B-2】12 時 02 分撮影

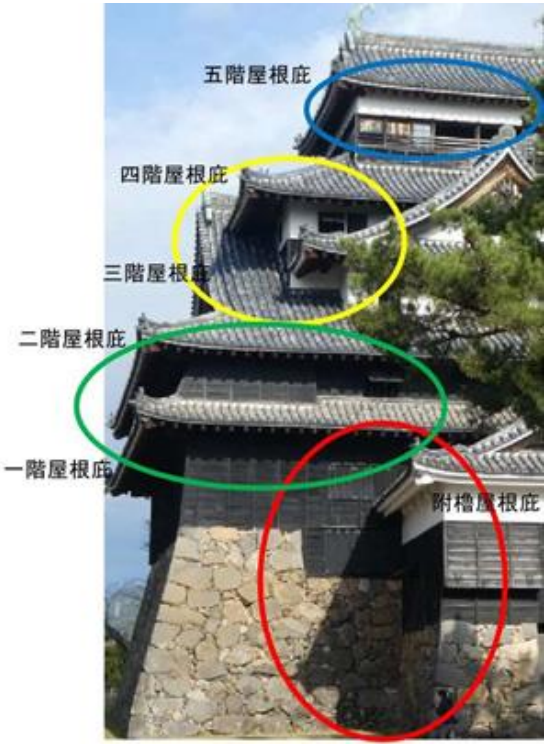
【写真 B-3】12 時 27 分撮影

【写真 B-4】12 時 51 分撮影

【写真 B-5】13 時 00 分撮影

【写真 B-6】13 時 10 分撮影

【写真 B-7】（曇ると影は消える）12 時 21 分撮影



【写真 A】は明治 27 年（1894）の大修理後の姿ですし、現在の天守は昭和 25～30 年（1950～1955）の大修理後の姿ですので、もちろん影にも微妙な違いがあるとは思います。また、太陽の南中時刻も一年を通して少しずつ変わります。そのうえで【写真 A】と【写真 B-1】～【写真 B-7】の正面左側を切り取り、時刻順に並べてみました。影の観察ポイントは、

1. 外観五階の屋根庇が作る影
2. 四階・三階屋根庇が作る影
3. 二階・一階屋根庇が作る影
4. 附櫓屋根庇が作る影

です。

【写真 B-1】から【写真 B-6】を通して見ると、四階・三階屋根庇が作る影と、附櫓屋根庇が作る影が時刻によって大きく変化しており、【写真 B-4】（12 時 51 分撮影）と【写真 B-5】（13 時 00 分撮影）あたりが【写真 A】の影と近いことが分かります。【写真 A】は概ね午後 1 時頃の撮影と言ってもいいでしょう。12 時 27 分に撮影した【写真 B-3】では、四階・三階屋根庇が作る影が屋根瓦の縦列と平行に写っており、今後の参考になると思います。

一方、四階・三階屋根庇が作る影を【写真 A】と【写真 B】とで比較すると、【写真 A】の方が影が下方に少し伸びています。松江での南中時の太陽の角度（南中高度）は、冬至の日には約 31 度、夏至の日には約 77 度ですので、南面の屋根庇が作る影は冬至の日には最も短く、夏至の日には最も長くなります。ですので、【写真 A】は 12 月 23 日に撮影した【写真 B】より少し前の時期、或いは少し後の時期であることが分かります。【写真 A】は概ね 10～2 月頃の撮影と言ってもいいのかもしれません。人物の服装はそれほど防寒してもいないようにも見えますので、もしかすると 10～11 月頃の秋晴や小春日和の穏やかな日なのかもしれません。

これまで撮りためた松江城天守の写真データで光・影・撮影月日・時刻を確認してみましたが、概ねの時期や時刻は観察を広げると精度を高めることが出来そうです。

さて、松江城天守古写真【写真 A】に写る光と影を、現在の松江城天守と比べて話を進めてきました。現在の天守の姿は、明治時代以降もいく度の修理を経た姿ですし、南中時刻も微妙に変わります。ですので、現在の天守との比較で、明治・大正・昭和初期の写真から分かる撮影時期や時刻は、あくまで概ねです。影が出来ない曇天の場合は判断が出来ません。そのうえで、古写真の撮影時期や時刻が概ね分かると、どのようなことが一歩進んで言えるのでしょうか。

明治大修理竣工式の様子を伝える明治 27 年 12 月 17 日付「山陰新聞」によれば、「工事委員三島佐次右衛門氏は報告すらく抑も本工事は、明治二十七年六月十日を以て起工せしも、曩年雨露の浸蝕に任せし為破損実に甚だしく、其の一二を挙くれは四方破風屋根地取替百十坪、土居二百二十坪、座板張替百三十六坪、柱建替二十一本、土壁塗替三百二十坪、瓦の補填一万三千五百枚、漆喰百三十石、此他桁梁垂木鉄具等の取替枚挙に暇あらす而して同年十一月十八日完く竣工す」とあります。「山陰新聞」の記事をめくると、同年６月１日に入札・業者決定（白石伊蔵が落札）があり、６月 10 日より着手し９月 30 日に竣工する計画で工事は始まりました。天守修繕手斧初式は予定通り６月 10 日に行われますが、上記の記事にあるように、「曩年雨露の浸蝕に任せし為破損実に甚だしく（中略）同年十一月十八日完く竣工す」と、修理工事が完了（竣工）するのは計画より遅れたようです。同年 12 月 16 日に竣工式が行われ、上記の通り翌日の「山陰新聞」に竣工式の様子が掲載されました。（松江城天守の墨書の一つに「明治廿七年六月壱日ヨリ大修繕二着手シ同年九月三十日竣工」（『重要文化財松江城天守修理工事報告書』）とありますので、６月１日に白石伊蔵が落札した部分は９月 30 日に竣工していたのでしょうか）

改めて、【写真 A】を見てみましょう。木立など遮るものもなく天守全体が鮮明に写し出されています。３階華頭窓両側の窓、４階の窓などの特徴は、明治大修理後の姿を示しています。附櫓前方には土木工具らしきものが写ることから、整地の途中のようにも見えます。漆喰壁や板張り、屋根瓦には傷みや歪みなどが見受けられず、板壁や懸魚など木質部分に施された着色も色落ちしていないようで、あくまでも印象ではありますが、明治 27 年の大修理後まもない時期に撮影された写真のように見えます。写真には４名の人物が確認でき、付櫓の鉄扉内に２名、鉄扉外に１名、いずれも椅子に腰かけ威儀を正し、何らかの記念のために写っているように見えます。天守台の西側（写真左）の人物は一人立ち

姿です。今のところいずれの人物も特定はできていませんが、装い新たになった天守とともに、写真の所有者家の誰か、或いは天守大修理に関係した人物の可能性も考えられます。

明治 27 年天守大修理の記録に、【写真 A】に写り込んだ天守と周囲の景観、さらに光と影から得られる情報を重ねると、【写真 A】は、明治 27 年 11 月 18 日の工事竣工日前に撮影された可能性も考えられます。（あくまで可能性です）

私には、松江城天守の光と影を写した気になる写真がもう一枚あります。以前、松江市史編纂コラム第 49 回「松江城天守幻視考」や『松江市歴史叢書』９号などでも紹介しましたが、【写真 C】は、明治 27 年に松江城天守大修理が始まるより前の天守全体を写した今のところ唯一の写真で、荒廃した姿は多くの出版物で紹介されてきました。松江城天守を写した最もよく知られた一枚と言ってもよいのかもしれません。実は、この写真にも、光と影が映っているのです。

【写真 C】松江城天守古写真（推定：明治 25 年８月頃から明治 27 年６月 10 日の間の撮影。昭和修理時に複写された）

【写真 C】は天守の姿から暗いイメージをもちがちですが、明瞭な影が出来る明るい日ざしの中で撮影されたようで、ご覧いただくと四階・三階屋根庇が作る影、附櫓屋根庇が作る影がよく観察できます。影は左上から右下に伸びていますので、明らかに午後の撮影です。また、【写真 B】と比べても三階屋根庇の影は伸びており、これまで撮りためた写真データと比較してみても、6 月前後の影の長さである可能性が考えられます。

松江歴史館の木下誠氏のご尽力により、明治 27 年天守大修理中の写真が確認・報告され（木下誠 2020「新たに確認した松江城天守古写真-ガラス窓に改修された天狗の間-」『松江歴史館研究紀要』第 8 号）、この写真の報告により【写真 C】は明らかに明治 27 年天守大修理前の荒廃した天守の姿であると確信できるようになりました。しかし、撮影年・月となるとやはり決定的な確信は得られていません。写真に写る光と影が、少しでも解明の糸口になれば幸いです。

追記

今回は、光と影というテーマで松江城研究の面白さを紹介してみました。松江市域の中でも、松江城天守ほど多くの方に多くの写真が撮影された文化財も少ないでしょう。私は気象学や光学の知識があるわけではありません。お城に関心をお持ちの方はもとより、多様な学問分野の方々が松江城研究にご参加いただき、ご意見をいただければ幸いです。

「松江城天守の光と影」という突拍子もない視点が、些かなりとも役立つことがあればいいなと願います。科学的な「松江城天守の光と影定点観測」や「松江城古写真の彩色加工（カラー化）」などの試みが始まるといいですね。

（松江市史料調査課副主任行政専門員／稲田信／2022 年 2 月 25 日記）